

ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園

2017年3月15日

「ご卒園・ご進級おめでとうございます」

今年の冬は、たくさん雪が降り、子どもたちは毎日毎日、雪で遊びました。雪は子どもたちの遊びにとって最高の環境です。朝、登園には、お子さんをそりに乗せて、幼稚園まで連れてきて下さるお母さんもいらっしゃいました。お座りをして、バランスを取りながら周りの景色を楽しんで、子どもたちはやってきました。お昼ご飯を食べたら、子どもたちは、大急ぎでジャンパーを着て、手袋をはめ、キャハンをつけて、外へ。手袋もキャハンも手先の器用さが必要ですが、年少さんもとてもしっかりになりました。外では、そりすべりをする子、おしりすべりをする子、ごろごろ転がっている子、穴を一心に掘る子、先生と一緒にこおり鬼をする子、みんな思い思いに遊びました。ちょっとぐらい寒くても、吹雪でも、泣く子は誰もいません。どの子も熱中して雪の遊びを楽しみました。

毎年繰り返される、冬の光景です。『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ。(ロバート・フルガム)』という本もありますが、雪国の子どもは冬になると、砂場以上に様々な遊びができる雪を、神様からいただきます。なんと贅沢なことでしょう。本当に子どもたちは、この園庭で、たくさんのことを学びました。

お片付けが済んで、お部屋に戻ると、子どもたちは帰りの会で、お休みをしているお友達や、世界中の困っている人へ心をはせてお祈りをしました。そのあと、温かい声で、担任の先生が絵本をたくさん読んでくれました。子どもたちは、のんびり絵本の世界を楽しみました。

なんと豊かな生活でしょう。かわいい手を合わせてお祈りをして、たくさんお外で遊んで、たくさん絵本を読んでもらって、そうやってミカエルの子どもたちは、大きくなりました。

小さかった時のことは、大きくなったらすっかり忘れてしまうかもしれませんが、この豊かな生活が、きっと子どもたちの生きる土台になっていくのだと思います。

ご進級・ご卒園おめでとうございます。聖ミカエル幼稚園をお選びただいて、信頼をしてお子さんを預けてくださった保護者の皆様、本当にお世話になりました。

年長さんのお子さんの、そしてお父さんお母さんの幼稚園生活はいかがだったでしょうか。何年かしたのち、「やっぱりミカエル

で育ててよかったわ。」とお声をかけてくださるなら、どんなにうれしいことでしょう。そうでなくても、お子さんとご家族の今後の生活の中の何かと、この幼稚園生活が繋がってくれると、とてもうれしいです。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「かたつむりのように」

いよいよご卒園の 때가 やって 来 ました。

短い期間でしたが、こどもたちと同じ時間を幼稚園で過ごすことができ、感謝いたします。礼拝堂で目をきらきらさせてお話しを聞いてくれたこどもたちの姿を、私は忘れません。そして、みなさんに明るく輝く未来が用意されていることを信じています。

私は、かたつむりという生き物に妙に惹かれるものがあります。なぜ、貝が陸上に住んでいるのでしょうか。きっと神様のちょっとしたイタズラなのかもしれません。小さな透明の入れ物に入れ、在園中、こどもたちも観察したことがあるでしょう。じっと見ていると、急いでいるようには見えないし、かといってじっとしていることもありません。動きはスローなのに、ちょっと目を離すと、もうそこにはいない。ゆっくりですが自分の速度で確実に進んでいるのです。不思議な生き物です。

時間の流れは決して一つではないといえます。世界標準時をもとにした時間の流れとともに、誰もが自分の時間の流れを持ち、その上を生きているうな気がします。同じ時間を過ごしても、人によって長さの感じ方が違うことがあります。しかしそれも、もう一つの時間の流れです。

いま、すずらん組の子たちは立派に成長して、幼稚園の役割は終わりつつあります。晴れやかに次のステージに歩き出して欲しい。ただその時、他の人の時間の流れに合わせては疲れてしまいます。自分ではなくなってしまいうのです。あくまでも、かたつむりのようにゆっくりでいい、自分のスピードで、自分の時間で進んで欲しいと願います。「かたつむりの歩み、おそろしや」。

幼稚園はこれからも、こどもたちの過ぎた時間の中で、いつまでも生き続けたいと願っています。

チャプレン 下澤 昌